



碧南ロータリークラブ週報

第2766回例会 平成28年2月17日(水)

- 会長 山中 寛紀
- 幹事 新美 雅浩
- 会場監督(SAA) 杉浦 栄次

2015-2016 年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 事務局 碧南商工会議所内
TEL<0566>41-1100
ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 例会場 碧南商工会議所ホール
〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90
FAX<0566>48-1100



世界へのプレゼントになろう

- 会報委員 藤関孝典・杉浦秀延・八馬宜久

●齊 唱

ロータリーソング「今日も楽し」

●本日のお弁当

小伴天

●本日のお客様

碧南市立大浜小学校 校長 金子てる子様

会 長 挨 拶

丁度先週の水曜日でございますけども、例会後の非常に忙しい時間の中、当クラブの植樹式に多数ご参加頂きましてありがとうございました。大変寒い中でございましたけども、無事に終えることができました。また、当日ご参加頂きました皆様の体調が心配されましたが、幸いインフルエンザにかかられる方もなかったようで良かったと思います。



山中寛紀会長

そのインフルエンザの話ですけども、昨日の新聞に全国での発生患者数が推定 164 万人で恐らくピークに達したのではないかという記事が載っておりました。

以前の例会の時に 1 度この話に触れたかもしれませんが、12 月～1 月にかけて暖冬で非常に暖かい日が続きまして、市民病院の救急外来とか休日診療所の正月の来院患者数が稀に見るほど少なくて暇だったということでございます。ところがどうも先週の水曜日の 2 月 10 日辺りをピークに達しまして、碧南市でもインフルエンザの患者数が増えてきたようです。1 つの目安になりますのは、休日診療所を訪れる患者数でございますが、普通は冬場の平均で 1 日 40～50 人ぐらいなのですが、2 月 7 日の来院患者数が 85 名あったとのこと。11 日の祝日は 108 名ということで一気に増えまして、この中でインフルエンザを疑われる方が 86 名いらっしゃいまして、検査をしたら 42 名が陽性でかなりの数の方がおられました。勿論、

碧南だけではなくて一部高浜や西尾の方も来られますが、相当な数の方がインフルエンザにかかっております。因みに先日の日曜日の来院患者数は 91 名ということで少し減っております。

私たちの碧南市医師会のホームページを見て頂きますと、7～8年前からトップページにインフルエンザの発生状況ということで公開しております。その中の「続きを読む」をクリックして頂きますと、碧南市の地図が載っておりまして大きく 7 つの地区に分かれておりますが、1月2月の毎日の日にちが書いてあるところにカーソルを合わせて頂くと A 型のインフルエンザですと赤○、B 型ですと青○で地図上に示されています。これを見ますと今日はこの地区で何型のインフルが何名あるとか、流行の地区が一目瞭然で分かります。

今年の特徴としまして、熱が出ていなくて症状の軽い人からインフルエンザが見つかるということ。それから、碧南市の中でのことですが A 型と B 型の数が同じくらいでいつもの冬場のインフルエンザとは違うかなという印象を持っています。

1 つ気になっている病気がジカ熱ということで色々なメディアで流れておりますので知っておられる方も多いと思いますけども、一時パニックになりかけたエボラ出血熱ほど致死率の高い病気ではないにしても、問題なのは妊婦さんが感染すると小頭症の乳児が生まれるという深刻な病気で、主にブラジルで多く発症が見られます。これは蚊による伝播ではございますが、一部アメリカ国内では性交渉によっても感染した報告もあるようでございます。蚊の伝播ということで日本でもデング熱が代々木公園で問題になりましたが、これからブラジルのリオデジャネイロでオリンピックがございまして、たくさんの日本人の方が渡航されて向こうで拾って来て日本国内で出てくる可能性がございまして、ジカ熱はワクチン開発中ということで今後このような病気が日本に来ないことを祈りつつ、今日の例会を迎えております。

本日は寒い日ではございますけども、この後の例会も皆様どうかよろしくお願い致します。

幹 事 報 告

幹事報告させていただきます。

- 例会変更等は幹事報告書に記載の通りでございます。
- 今週の土曜日に西三河分区のインターシティーミーティングが開催されます。碧南 RC から 50 名ほどの方がお越し頂くことになりました。ありがとうございます。当日、受付表を配布致します。再度のご案内になりますが、13 時から受付を開始致しまして、知立のクラウンパレスの 3 階の友愛の広場で受付を済ませ、資料を取って頂いてからリリオコンサートホールにご移動をお願い致します。式典が 13 時 30 分から開始でございますが、開始から 20 分間は演出の都合上、入退場ができなくなりますのでご配慮頂きたいと思っております。懇親会にご出席頂ける方にご連絡ですが、立食になっておりますのでお伝えしたいと思います。
- 24 日の例会でございますが、こちらは振替休会となります。次回は 3 月 2 日になります。
- 3 月 2 日の例会終了後に第 9 回の理事会を開催致します。役員、理事の皆様はよろしくご



新美雅浩幹事

予定のほどお願い申し上げます。

委員会報告

<出席奨励委員会>

総会員数 71 名 (内出席免除者 17 名の内出席者 16 名)出席者 63 名	
出席対象者 63/70 名	出席率 90.00%
欠席者 8 名(病欠者 0 名)	前々回修正出席率 100%

※六週連続出席率 100%の場合は記念品を差し上げます。

<ニコボックス委員会>

- 山中 寛紀君 2月10日の大浜口広場での植樹式には、多数の会員にお越し頂き、棚尾
竹中 誠君 地区、大浜地区の町内会長さんや棚尾小学校児童会の皆様に見守られなが
新美 雅浩君 ら、無事、植樹式を終えることが出来ました。本日の中日新聞の西三河版
にも可愛く掲載がされておりましたこと、ご報告致します。
棚尾地区まちづくり推進協議会の奥田雪雄委員長、長田豊治副委員長には、
地元の皆様とのパイプ役として大変お世話になりました。ありがとうございました。
- 山中 寛三君 小伴天のご母堂百才お目出たいことです。私もあやかりたいものですが、
なかなかむつかしいことと思います。
- 加藤 良邦君 過日2月13日、消防協会追弔会には関係各位の皆様にご世話になり
ました。有難う御座いました。
- 小笠原良治君 楽しい時間をありがとうございました。(小笠原月乃)
- 石橋 嘉彦君 大浜口公園の植樹事業、無事完了しました。ありがとうございました。植
樹式おめでとうございます。
- 長田 銑司君 百才の長田文子、私の母です。毎日、眼鏡なしで中日新聞を読み、耳は少
し遠くなりましたが、“にこにこ”と会話が出来ます。ものおぼえもよく、
自慢の母です。週二、三回鰻を二切ずつ食べ、新鮮な刺身も大好きです。
少しずつ乳母車で歩きます。娘の車で市役所通りの“小伴天”を見、また
“一灯”も見て嬉しそうでした。明るい母です。
- 平岩 辰之君 長田和徳さんに大変お世話になりました。ありがとうございました。
- 鈴木 泰博君 本日の卓話の講師 金子てる子様をご紹介させていただきます。
先日は黒田昌司様に大変お世話になり、ありがとうございました。
- 杉浦 秀延君 金子校長先生、本日はありがとうございました。よろしく申し上げます。

「伊号第29潜水艦 艦内誌“不朽”の復刻」
碧南市立大浜小学校 校長 金子てる子様



金子てる子様

皆様、こんにちは。大浜小学校校長の金子てる子でございます。今日は本会にお招きを頂き、誠にありがとうございます。また、日頃は小学校、中学校教育に多大なご理解とご協力を賜り、お礼申し上げます。ありがとうございます。皆様のような立派な方々に伝わるようにお話ができますかどうかドキドキしております。どうぞよろしくお願い致します。

伊号第29潜水艦は旧日本海軍が建造し、1942年に完成。全長は100m、1943年にはインドの独立運動家チャンドラ・ボースが来日のため、乗り込んだこともありました。Uボートを使った物資・人物の搭乗交流を思われる方も多いと思います。「密命！潜水艦イ29号」という漫画等もあったように思います。しかし、1944年7月26日にヨーロッパからドイツのジェットエンジン等の航空技術資料を持ち帰る途中、フィリピン沖でアメリカ潜水艦の魚雷攻撃を受けて撃沈され、106名の乗組員は1名を除き死亡されました。その潜水艦の乗組員が文芸作品などを寄せた艦内誌「不朽」の創刊号が杉浦秀延さんのご自宅に蔵書として存在していました。

B5版110ページからなるガリ版カラー印刷冊子でございます。ガリ版カラー印刷という技術は昭和初期では、高度な技術とされ、珍しいものと私も聞いております。次のページは紫色で縁取りされています。お手元にお配りしました、復刻版「不朽」は白黒でございますのでカラーとなっておりますがご覧頂ければ幸いに存じます。最初にその内容に触れさせて頂きます。皆様のお手元でございます、復刻版「不朽」、そして私が手にしております電子書籍の形に実物を復刻したというお話になります。表紙の題字は原本にはございませんでしたので、わかりやすくするために私が制作しました。題字は勝田大佐が書かれたとあります。

2ページ目には「伊号29潜の名に因み 楠公の七生滅敵 万世不朽の精神を体現するものとしての自覚に於いて不朽と名づく」とその由来が書かれておりました。

巻頭言には戦意覚悟が語られております。このページには荒磯と日の出をカラーで画いてございました。

最初にある写真はインド洋で商船破壊活動の任務の際、赤道を通過することが多く、台風嵐を越え、無事通過できるよう赤道神から通行の鍵を受け取るといった能を奉納していた写真です。赤道神が赤鬼、青鬼を従え、鍵を持っています。

次の写真はイギリス商船を撃沈したときの模様でございます。戦果を上げた29潜水艦の名高いことが伺われます。

最後の写真は陸地ペナンでの演芸会の写真となっております。

次に昭和18年の艦長 年頭所感とございます。29潜水艦が故障なく乗員の盛業完遂を称えた内容となっております。

続いて、大東亜戦争の歴史的必然性を説いた論文です。

16 ページ 赤道祭で使っておりました「赤道神」という能の台本になっています。妖怪を退治し、赤道神から鍵を受け取り、勇ましく ABCD 包囲陣を破るため戦地に赴くという物語になっております。

33 ページ 油虫訓 潜水艦内は湿気・熱気のため、ゴキブリが多くいたようでございまして、その退治も乗員の任務でした。またその数を競ったようでございます。その中でゴキブリを戦士に例えて「ここで死んでは後世の物笑い」と死と隣り合わせの極限にありながらユーモラスに書かれております。

39 ページ 潜水艦魂には機械室は 40 度、40～50 日は太陽を見ない水中での生活、秘密単独敵地へ乗り込み戦艦にぶつかっていく戦いの覚悟が書かれております。

47 ページ カバチとは広島弁で馬鹿ということで内容もおもしろおかしく書かれております。広島のみで乗り降りをしたということで広島弁をよく使っておられたようでございます。

56 ページ ブキテマは激戦地シンガポール島にある地名でございまして、マレー制覇を終えた地点という内容であります。

後半につきましては漢詩、和歌、俳句と続いております。

尚、編集後記 105 ページからは長い潜水艦での生活で乗組員の気持ちを 1 つにまとめるための冊子であったことが伺われます。

さて、関西大学の米田文孝教授の論文の中に、「不朽」に書かれている内容と同じ内容があり、艦内誌「不朽」であると確証を得られた経緯については既にご存知の方も見えることと思います。杉浦秀延さんが関西大学の米田教授や防衛省と連絡を取られ、希少な実物であることを確認されました。ここに実物がございます。

奇特にも杉浦さんは、学校の平和教育にと提供されました。劣化が進んでいましたので、子供たちが直接手に触れて学ぶことは困難と考えました。まず、写真データに収めました。このことは 2014 年 8 月 13 日の中日新聞で大きく報道されました。劣化が進んでいるのであれば、電子書籍に復刻すれば史料として活用できるのではないかと考え、子供たちと教師で復刻する学習を企画しました。まず、一人ひとりが書き起こす。そして、それをコンピュータで活字化をする。教師が一連に編集する。校正して、紙冊子と電子書籍に完成させる。復刻完成報告会を実施する。その後、子供たちが解読し、平和教育に活かしていくという計画でございました。

たまたま、東浦町に水雷長の岡田文夫さんの妹さん家族がお住まいで、新聞記事をご覧になり、本校に「不朽」についてお尋ねがございました。書き起こし活動に参加して頂くことをお願いしましたところ快諾を得ました。4 月 27 日、岡田文夫さんの妹さんは「戦地から戻ると潜水艦の話をよくしてくれました。色々なところへ連れて行ってくれたやさしい兄でした。」とお兄様との思い出を子供たちに語られました。このことで子供たちは戦争という時代があったこと、フィリピン沖で乗組員は永眠して今も家族の元に帰っていないこと、乗組員が日本や家族を守るために命を懸けて戦ったことを知ることとなりました。

書き起こし作業に参加して頂きました。原文を読みやすくするために写像を A3 版に拡大しました。子供 1 人当たり 150 文字程度であれば、分担し書き起こすことができるだろうと考え、110 ページからなる「不朽」を 1 人分ずつ「不朽」プリントに作成を致しました。

旧漢字・旧仮名遣いで難解な文章も多く、独特な言い回しも随所に見られます。各クラスに5～6人の教師が書き起こし作業に加わり指導しました。辞典や古文書辞典も活用しなければ読み取ることにはできません。不鮮明で読めない文字は写真データを拡大し、何度も読み返し、それでも読めない文字は×で記していくなど苦戦を致しました。苦戦したからこそ、子供たちからは「文が途中で終わっているのに、他の人の文も読みたい」と戦争の事実をもっと知りたいという感想が多く出されました。子供たちはパソコンが得意です。書き起こした150字余りをパソコンで活字にすることは20分程度でできます。活字化することで「戦争の生々しさがわかりました。」と行間を読み、学びを深めて参りました。活字にした学習の一人ひとりの成果を教師が繋げ、一連に編集しました。それを元に児童会運営委員が校正し、原稿を完成させました。完成した原稿をPDFに変換し、タブレット端末で読めるよう電子書籍にして参りました。また、原稿を印刷所に依頼し、B5版105ページ、32,652文字の復刻版「不朽」500冊を製本致しました。

愛知県下に住む伊号第29潜水艦乗組員等の7遺族を招聘し、艦内誌「不朽」復刻完成報告会を行いました。

「不朽」の実物は紙の傷みが激しく、実物を手にしてめくって読むと破損してしまいますが、電子書籍であれば読みづらい文の拡大やめくり返す操作も楽しむことができます。代表が電子書籍を操作しながら「不朽」を読み進めると「戦争中と今が繋がった」と子供たちから一斉に喚声が上がりました。活字に完成して初めて「不朽」というのは29潜水艦の29に因んで題名を付けたことが子供たちに伝わりました。

「男の子等は召されて国の戦艦波騒がしき海の沈めに」と読み残された黒田弥五郎さんは、1944年同艦に乗り、25歳で亡くなりました。その遺族である名古屋市在住の田辺さんは「父の写真もなく、顔も知らない。父の遺品は何1つない。この和歌が唯一残されていた。父の姿がまぶたに浮かぶようだ。小学校の皆さんに感謝を致します。」と涙ながらに話されました。

艦内誌が甦った以後、さらに5年生の子供たちは社会科で日本の戦争の歴史を学習しておりませんので、聞きなれない内容ばかりです。そこで、復刻版「不朽」をさらに解説することで、平和への思いを深めさせたいと考えました。各自が分担して復刻した文や学級の担当したページを現代の言葉に書き換えました。ここから、さらに調べたい内容を明確にして参りました。

「伊29潜水艦の歴史」「潜水艦の構造や性能」「なぜ日本は戦争をしたのか」「太平洋戦争」の分類からグループを作って、書籍、インターネットなどを使い、伊29潜水艦に詳しい関西大学の米田文孝教授に直接電話インタビューをして調べました。これはスマートフォンで米田先生に子供たちがインタビューしているところがございます。潜水艦内の乗組員の序列、艦の機関の名称、生活の様子など詳細に教えて頂きました。また、「不朽」の最後のページが欠落していると最後のページのコピーを送って頂きました。昭和18年2月11日発行とありました。この米田教授の話に基づき、ある子は赤道神について詳しく調べていきました。また、乗組員の方々の思いを子供たちは深く話し合いました。

この学習で新聞記事にあるように、先程お話した「赤道神 佐古少佐作」本誌の16ページ

が歎世流新作能まぼろしの「皇軍艦」の原文原作であることを突き止めました。当時、全国能楽堂で上演され、終戦と同時に絶版となりました。学習する中で新たな文化史上重要な箇所が発見となりました。「自分の死を恐れず戦った勇気ある潜水艦の乗組員の人に感謝しました。自分たちのことを後世に残したかった、芸能を自由に楽しむ平和のくることを願っていた」と戦争と平和を自分自身に引き付けて考えていく過程や平和の大切さを語る子供の姿に頼もしさを感じる次第でございます。

遠く、北海道札幌をはじめ、九州福岡にいらっしゃる乗組員遺族からの問い合わせが18件あり、艦内誌「不朽」の復刻版と電子書籍データをお贈りしました。また、艦内誌「不朽」の復刻版を希望する全国109件の方々にも寄贈することができました。大和ミュージアムをはじめとする関係機関・図書館・防衛省へも贈らせて頂きました。子供たちと共に艦内誌「不朽」の復刻版を贈る活動はまだまだ続けております。「不朽」の史料を提供して頂いたことで、戦争と平和についての認識を教師も子供も深め、平和の大切さを語る子供たちが育ったことに校長として大変感謝しております。多くの新聞社が本校の取り組みをその都度取り上げて頂きました。未来を作り上げていく若い子供たちにとって教科書ではない価値ある1級実物史料で学ばせる学習の意義は大きく深いものがあります。もし、戦争遺物に限らず、実物で学習に活かせる物がございましたら、是非、大浜小学校 金子までご提供頂ければ幸いに存じます。

最後に東海テレビ7月26日放送の「ニュース ONE」で取り上げられた特集の映像になります。ご覧ください。

ご静聴ありがとうございました。

次回例会案内

平成28年3月9日（水） 衣浦グランドホテル
卓話「愚痴と念仏」 専興寺 住職 浅野 怜氏